

ぶなの森

第88号

令和3年10月15日発行

発

行：社会福祉法人常成福祉会

丹沢自律生活センター

神奈川県秦野市菩提 1711-2

発行 責任者：センター長 伊藤崇博

印刷：丹沢自律生活センター

ホームページ：<https://jousei.or.jp>

アドレス：tanzawa@jousei.or.jp

花鳥神社に手作りベンチを寄贈

10月4日、当法人より花鳥神社にベンチを寄贈いたしました。

このベンチは、法人内多機能型事業所『秦野ワークセンター』の利用者と職員が作りました。こだわりは、「可愛さと座りやすさ」です。座りやすい背もたれの角度を割り出したり、触り心地が良くなるように面取りをした肘掛けに時間をかけて心を込めて作りました。利用者からは、「みんなで協力して作ったベンチなので、多くの方が座ってくれると嬉しいです。」との話もありました。

花鳥神社に参拝された際は、腰かけてみて下さい。



制作風景



長持ちするように丁寧にニスを塗りました。



電動工具を使って協力しながら組み立てました。



完成です。なかなかの座り心地です。

市内一斉清掃・法人清掃

9月の市内一斉清掃と秋の法人清掃を行いました。利用者も職員も「ヤマビル」に気を付けながら作業をしましたが…。

これからもキレイで安全な里山を保全するため、また地域に貢献できる活動として継続して行きたいと思います。





ふくろ ニュース

コロナ禍の今こそ活動の工夫を！

新型コロナウイルスの感染の広がりは、障害のある人たちの暮らしに大きな影響を及ぼしています。

どうしたら安全・安心を守りながら、楽しみのある生活を送れるか。法人の各事業所では、日々運営の仕方を模索し、様々な工夫を凝らして活動に取り組んでいます。



やっぱりお祭りは楽しいな～



ミニ「秋まつり」を開催！

丹沢レジデンシャルホーム

外出行事ができない分、参加賞や優勝商品などを沢山準備してお祭りを盛り上げました。居住者さんと職員のみでの開催でしたが、射的やヨーヨー釣り、焼きそばやフランクフルトといった「祭りめし」も楽しんでいただき、ささやかながら良いお祭りになりました。



夏休みを満喫 ときの家

放課後支援の事業所なので、普段は活動時間が短いのですが、夏休み中は朝から活動ができるので、普段できない活動が色々できます。暑さ対策も十分に考えながら、お散歩や水遊びなどを楽しみました。



通所事業所では合同で行事を開催しました

花鳥デイサービスセンターと秦野ワークセンター
5月には「ぶっかけうどんの日」を、9月にはお月見の「どら焼き作り」を合同で開催しました。コロナ対策上みんなで1か所に集まって作ることは難しいため、分散して作業を行いました。どら焼き作りでは、少し微妙な形の「お月様どら」に、思い思いの餡子を入れて楽しみました。クリームは雲っぽい感じで風流でしたが、抹茶どら焼きは、もはやお月見とは関係の無い、単なる美味しいスイーツになりました。



うどん用の天ぷらを揚げています（超本格的）



うどんはもちろん手打ち！（超本気）



お月見のどら焼きづくり



室内活動も楽しんじゃおう！

あじさい

普段は散歩や外出を中心に活動しているため、コロナの影響を大きく受けています。コロナに負けないよう、室内でも皆で楽しめる活動を色々考え、沢山の企画を楽しみました。テーマを決めた「写真撮影会」も好評です。



フローティングフラワーに挑戦しました



ミニトマトの栽培。水やりなどの役割も張り合いになります。（きゅうりも育てて美味しくいただきました）



頑張ってきたのに辞めちゃうのはもったいない！



職場では数年来「働きやすい職場づくり」というテーマがメインになっており、「どうしてもっと離職率を下げ、職場定着率を上げることが出来るか」といったことを皆で考え続けています。そんな折に今回このインタビューを受け、『どうして村松さんは27年間も仕事を続けてこられたのですか？』と聞かれた訳ですが、改めてその理由を考えてみることで自分自身の初心を振り返る良い機会になりましたし、皆で取り組んでいることを掘り下げて考える機会にもなったように思います。

なぜ私は仕事を続けてこられたのか。それは単に、元来不器用でノロマ

今日も美味しいビールが飲めるように
1日をフル回転で頑張りたい

村松聡子

Satoko Muramatsu

だったから、なのかもしれない。毎日毎日「今日は〇〇の予定があるから、〇〇の準備をしておかなきゃ」などと、その日一日の仕事の段取りを考え、することで精一杯だったし、ただそういう積み重ねで長い年月が過ぎていった、というのが本当のところだと思います。

仕事を辞めたいと考え始めると、色々自問します。「本当に辞めてしまつて良いのか」、「後悔しないのか」、「やりきつたと言えるのか」。最終的に「ここまで頑張ってきたのに、辞めてしまつのはもったいないのではなにか？」という自分なりの答えに行き着いたのは、仕事とプライベートを区別して考えられたことも大きかったように思います。仕事の本来的な部分の悩みと、それ以外の、例えば職場の人間関係といったプライベートに近い部分の悩みを一緒にして考えていたら、多分とっくに辞めていたでしょうし、そういう意味でも目の前の仕事に集中せざるを得ない自分の不器用さは、悪いことばかりではなかったのでしょうか。

本当のプライベートの部分では家族の存在が大きかったと思います。家族に愚痴を聞いてもらったり、応援してもらったり。そうこうしている内に日が経ち、日々の生活や業務に追われながら、また続けていくことと思えたり、辞めたいという気持ちが薄らいでいったりする。

用であるからこそ仕事には仕事の事しか考えられなかったし、ノロマだからこそ決断に時間が掛かり、あれこれ考えている内に思い直すことが出来たのかもしれない。そう考えると、やっぱり私が仕事を続けてこられたのは不器用でノロマだったおかげなのかもしれない、と思うのです。



町田福祉専門学校を卒業し平成6年に入職。趣味はディズニーと料理。休日は1日中キッチンで過ごすことも。

本当はもっと後輩の悩みを聞いてあげなければいけない立場なのですが、ついつい自分の意見を先に伝えようとしてしまい、いつも落ち込みます。家族が自分の悩みを一緒に分かち合ってくれたように、私も後輩の愚痴をきいたり応援したりして、一緒に考えてあげられる先輩職員にならなければいけないし、相談したいと思ってもらえるようになりたい。

活気のある職場にするためには若い力が必要なので、もし入職後に「思っていたのと違う」と感じるものがあつたら、率直に教えて欲しいです。なんでも言い合えるように、話しやすい雰囲気をつくること。後輩職員の声や思いをよく聞くこと。そういう自分なりの目標を持って、これからも頑張っていきたいです。

常成福祉会の
**キラッと光る
ひとたち**
(第5回)

常成福祉会の、個性や頑張り
がキラッと光るひとたちを紹介
しています。



あどがき

食欲の秋・スポーツの秋・読書の秋…いろいろな秋がありますが、みな様の秋はどの様な秋でしょう。緊急事態宣言が解除されました。繰り返さない様に秋を楽しみたいですね。

